

静寂。五日市日帰りの旅行にて写す



SSKS



「ほっとスペース八王子」ニュース

ほっと

2009年7月号

128号

定価 100円

目次

特集 沖縄研修ツアー報告集 2頁  
 / 沖縄ツアーに参加して (pakicil) / 沖縄研修レポート (渡辺 広海)  
 / 5・15 沖縄研修事前・事後レポート (堀部 正) /

新会員紹介 6頁  
 / よっちゃん / 大目 聞象 /

特集 参加してよかった。楽しかった。癒された。充実の  
 プログラム参加報告 7頁  
 / 日帰りの旅行サンシャイン水族館 (山口 咲子) / ルーブル美術館展に参加して (堀部 正) / 阿修羅展に参加して (朝野 善果一) / 五日市探索日帰りの旅行 (朝野 善果一) / 丸木美術館に行ってきました (渡辺 広海) / かんぼの宿・ワイナリー日帰りの旅行に参加して (C・S) / 国立新美術館訪問記 (編集部) /

特集 2009年度賛助会総会開催さる 10頁  
 / 2009年度活動方針 / 賛助会への要望 /

八障連活動レポート・投稿 11頁  
 / 八障連主催 第2回議員懇談会報告 / 投稿コーナー (間宮 久子・網走 健二) /

日々雑感 14頁  
 / 練馬の高齢者施設での火災事故 (堀部) / 人権意識、権利意識を高めよう (植松 恵樹) / 未来展望・農的自給自足コミュニティがこれからの主流?! (よっちゃん) / 通信大学生日記(1) (さくら桃) /

創作コーナー  
 ガンダムW オー by 渡辺 広海 アザディスタンの皇女 18頁  
 その他 19頁  
 / 書評 / 編集後記 /

発 郵 E ホ F 電 編  
 行 便 M ー A 集  
 所 振 a i ー X 話 人  
 替 ー r i ー 話

八王子市八幡町二二二ふくしまやビル二階  
 「ほっとスペース八王子」(代表 古川 弘之)  
 〇四二一六二八一三一九  
 〇四二一六二〇一七七八六  
 工事中。  
 CXB01672@nifty.ne.jp  
 〇〇一八〇七七一四六「ほっとスペース八王子」  
 世田谷区砧六二二六二二一 障害者団体定期刊行物協会

# 《沖繩研修ツアー報告》

ほっとスペース八王子では、去る5月15日から5月17日にかけて会員研修の一環として、沖繩研修ツアーを実施しました。会員3名が参加しました。この研修ツアーの実施にあたっては、事前の研修テーマにもとづき事前レポートと、研修報告を事後レポートとして書いていただきました。研修に参加された皆様、大変ご苦労様でした。なかなか遠出する旅行には参加する機会がない仲間が多いですの

## 沖繩研修報告集—沖繩研修に参加して—

で、ぜひこの報告集を読んで、その体験を共有してみたいかがでしようか。(編集部)

### 沖繩ツアーに参加して

pakiol

#### ■ Before (事前研修レポート) ■ チビチリガマとシブクガマ

#### 1 チビチリガマについて

1945年4月1日、米軍はこの読谷村よみたんの西海岸から沖繩本島へ上陸した。それは、住民を巻き込んだ悲惨な沖繩戦・地上戦であった。その日のうち、米軍はチビチリガマ一帯に迫っていた。翌2日、チビチリガマへ避難していた住民約140名中、83名が「集団自決」をした。尊い命を喪(つ)じた。あれから38年後、やっと真相が明らかになった。その結果、83名のうち約6割が18歳以下の子供達であった。その他、2名が米兵の手によって犠牲になった。「集団自決」とは「国家のために命をさ

さげよ」「生きて虜囚(りよしゅう)の辱め(はずかし)を受けず、死して罪過の汚名を残すことなかれ」といった皇民化教育、軍国主義による強制された死のことである。

チビチリガマに於なせ83名もの人達が集団自決をしなければならなかったのか視察してきたいと思

#### 2 シブクガマについて

います。  
沖繩戦で、チビチリガマでは集団自決が起こりました。しかし、同じ地区の人々が多く避難していた

シブクガマでは、集団自決は起こらなかったそうです。同じ教育を受け、同じ環境で暮らしていた人々に、なぜこのような「差」が生まれたのでしょうか。視察してきたいと思

#### ■ After (事後研修レポート) ■ チビチリガマとシブクガマ を視察して

1 チビチリガマについての視察  
ガマとは自然にできた洞



チビチリガマ入り口です。

窟を意味し戦時中人々が避難していた所です。チビチリガマになぜ83名もの人達が集団自決をしなければならなかったのか? チビチリと

はチビはお尻のこと、チリは尻切れとのこと、チビチリとは川が洞窟の中で途切れているという意味だそうです。140名もの避難民がいたそうです。洞窟内の生活は不衛生など悲惨なものです。日本国の指示は鉄砲を持っている米兵と竹やりで戦えることだそうです。ひどいものです。竹やりで鉄砲に勝てるわけがありません。

「集団自決」とは「国家のために命をささげよ」「生きて虜囚(りゆいゆう)の辱め(はずかし)を受けず、死して罪過の汚名を残すことなかれ」といった皇民化教育、軍国主義による強制された死のことであります。

少女が母親に殺してと言い、母親は少女の首を包丁で切りつけました。それからというもの、次から次へと子供を親が首を切り自決しました。首を切ったくらいでは、出血は大量ですがなかなか死ぬす苦しみながら亡くなったそうです。親たちも自分の首を切ろうとしましたが、なかなかできるものではありません。環境の悪い洞窟の中のなかではなく明るい外で死にたいとのことでした。残った人々は、明るい外で死にたいと、外に出て米兵の銃撃にあって、尊い命を捧げたそうです。

## 2 シブクガマについての視察

沖縄戦で、チビチリガマでは集団自決が起こりました。しかし、同じ地区の人々が多く避難していたシブクガマでは集団自決は起こらなかったのです。同じ教育を受け、同じ環境で暮らしていた人々に

なぜこのように「差」が生まされたのでしょうか？



シブクガマの入り口です

はガマの中に川が流れていて、ちょっとガマに入っただけで、カビ臭さ、湿度の高く、とても、人間の生活するようなところではありません。衛生的にもひどいところです。そんな環境の悪いところ1000人も避難民が非難生活を続けていました。非難生活を戦時中の人々は辛かっただろうと感じました。そこに拳銃を持った米兵が襲ってきたのですが、日本語で書いた「殺さない」と米兵がシブクガマで避難生活していた避難民に警告してきたそうです。皆信じませんでした。シブクガマには1000名が避難。こちらではハワイ帰りの比嘉平治さん(当時72歳)と比嘉平三(当時63歳)さんが「アメリカの兵隊は人殺さないよ。出ていって話を聞いてみよ」と村人をなだめ、全員が生きて助かったということでした。

## 沖縄研修レポート 渡辺広海

### Before (事前研修レポート) 沖縄米軍基地について

戦後60年を経た現在もなお、国土面積のわずか0.6%に過ぎない狭い沖縄県に、在日米軍専用施設面積の約75%に及び広大な面積の米軍基地が存在しています。

米軍基地は、県土面積の約11%を占めています。とりわけ、人口や産業の集積する沖縄本島においては約19%を占めています。

施設数37、広さ23,681ヘクタール(県土面積の約10%)、うち米軍専用施設面積23,312ヘクタール(全国の米軍専用施設面積の約4.7%)。軍人・軍属・家族数45,354人。軍人22,339人。軍属1,503人。家族21,512人。

#### ●主な米軍施設・区域

##### 1 普天間飛行場。

同飛行場は海兵隊第3海兵遠征軍の第1海兵航空団隷下36海兵航空群のホームベースとなっており、ヘリ部隊を中心として約70機の航空機が配備され、在日米軍基地でも岩国飛行場と並び海兵隊の航空基地となっています。同飛行場には、滑走路、格納庫、通信施設、整備・修理施設、倉庫があるほか、福利厚生施設等の設備があり、航空基地として



やんばるの森にヘリパッドなんていない!

総合的に整備されています。  
 2 北部訓練場。  
 同訓練場は、海兵隊の管理下に、海兵隊の各部隊の他、陸軍、海軍、空軍の各部隊により歩兵演習、ヘリコプター演習、脱出生還訓練、救命生存訓練及び砲兵基本教練などの訓練基地として使用されています。また、同訓練場は、米軍がフィリピン及びパナマから撤退したことにより、米軍が有する唯一のジャングル訓練施設ともなっています。

3 嘉手納飛行場。  
 嘉手納飛行場は、各々3000mのオーバーランを含め約4,000mの滑走路を2本有する極東最大

の空軍基地です。同飛行場は、第5空軍指揮下の第18航空団のホームベースとなっており、戦闘機、空中給油機、空中早期警戒管制機など約100機が常駐しています。同飛行場は、他のテナント部隊の役割と併せて、防空、反撃、空輸、支援、偵察、機体整備等の総合的な役割を担っています。

4 ホワイト・ビーチ。  
 ホワイト・ビーチ地区は、第7艦隊の兵站支援港、同艦隊第76機動部隊第1水陸両用部隊の母港として、燃料及び物資の補給や軍需物資の積み降ろし港として利用されています。また、原子力軍艦が休養、補給及び維持のために寄港するほか、強襲揚陸艦ベローウッドの長崎県佐世保基地への配備に伴い同艦の洋上訓練の際の兵員、装備、弾薬等の補給基地として同艦が寄港するようになりました。

以上が主な米軍基地ですが、問題はその広さです。地元民の土地を取り上げて、のうのうと居座っている、そこが問題です。沖縄の人々は一刻も早く土地を返してほしいと何度も抗議行動を行っています。しかし米軍はそれを認めず、未だ誠意ある解答をしていません。米軍の兵士による、日本人への暴行事件なども起きています。我々日本人は、こういった横暴な米軍のやり方を認めず、一刻も早く沖縄から米軍基地をなくすべきです。

■ After (事後研修レポート) ■  
 沖縄研修ツアー参加記

2泊3日でした。

1日目は午前7時に羽田空港第1ターミナルへ集合。那覇空港に着いたのが11時くらい。レンタルの車に分乗して(参加者19名いたので、まずはお昼を食へに。500円の定食屋さんがあつてとても美味しい定食(ソーキソバつき)を頂きました。で、そのあとチビチリガマとシブクガマの見学。そのあと4時から6時まで残波岬で交流会(バーベキューパーティーでした)。現地の人も来てくれて、沖縄民謡聞かせてくれたりといろいろ楽しかったです。そのあとはホテルへチェックインして、私は早々に寝ました。

2日目。辺野古で、「命を守る会」激励に行き、辺野古に新しい軍港が作られるのを阻止しようとする方のお話を聞きました。

海がとてもきれいでした。ボートにも乗れたんですが、私はすぐ酔ってしまうので、その後、高



バーベキューを囲んでの現地の人との交流会です。

江の植物公園で朝食。

移動で時間が押ししてしまったので、一度7時ごろホテルに帰ってからですぐ夕食。

3日目。ここが肝だったんですが、2時半から開かれる予定だった5・15県民大会に向かったはいいですが、帰りの飛行機の関係で、大会が始まる前に会場を出なければならず、あわてて旗竿とか片つけて車へ。那覇空港まで送ってもらいました。ところが今度は飛行機が遅れ、約30分遅れて離陸。家に着いたのは余裕で午前0時を回っていました。当然バスも終わっていたのでタクシード帰ってきました。

沖縄の食べ物ではやはりゴーヤが美味しかったです。シークワサーのジュースもコンビニで買いました。ホテルの部屋にウエルカムドリンクとしてミネラルウォーターが置いてあったのが嬉しかったです。しかも2日連続。3日目は午前中ひめゆりの記念館にも行ってきました。

## 5・15 沖縄研修事前・事後レポート

堀部正

■ Before (事前研修レポート) ■  
 沖縄について5・15とは

「1」 そもそも5・15とは何か

5・15とは、1972年5月15日のことです。この

日に沖縄が米軍から日本本土政府に施政権が返還されたのです。1945年8月15日に日本がアジア侵略戦争で中国、朝鮮を迫害、抑圧、略奪の限りを尽くしてきましたが、とうとう敗北しました。また、いわゆる第二次帝国主義間戦争でアメリカ帝国主義、イギリス帝国主義、オランダ帝国主義とのアジア市場争闘戦で完膚なきまでに敗北しました。

その際、ヤルタ・シユネープ会談を踏まえ、ポツダム宣言に基づいてアメリカ帝国主義との単独講和(サンフランシスコ条約1952年4月28日締結)という形で敗戦が確定しました。アメリカ帝国主義は旧ソ連の参戦でアジアへの旧ソ連の影響を排斥するために、沖縄戦では沖縄住民15万人の死者を出し、ヒロシマ、ナガサキへの核爆弾投下による数十万人の大量殺戮を強行するなど何としてもアメリカ帝国主義主導で日本を降伏に導こうとしました。

1952年4月28日に締結された単独講和とはアメリカ政府ではなくアメリカ軍に沖縄を売り渡し、沖縄をアメリカ軍によって蹂躪もみぢされることで日本本土に平和憲法で示される民主日本を再生するというものでした。しかし、その民主日本も超A級戦争犯罪人ヒロヒト天皇を日本国の象徴とするという内容でした。要するに、ヒロヒト天皇を処刑しない代わりに沖縄を売り渡せという内容でした。(ヒロヒト・マッカーサー会談参照)

沖縄4・28闘争はこうやって始まったのです。沖縄の教職員を中心にした本土復帰、基地撤去、永久核基地化反対の闘いです。当初は星条旗の米軍施

政下では許されなかった平和憲法を有した平和の国日本本土を象徴する「日の丸」を掲げて闘われ来ました。ベトナム侵略戦争中の沖縄では米軍基地労働者で組織された全軍労牧港支部を中心に全軍労が米軍基地内でゼネストを闘い米軍の基地機能を麻痺させました。現在は沖縄市と言われているコザでは米軍に抗議する暴動が起きました。本土では沖縄の闘いに呼応してベトナム反戦闘争と連動して闘われた新宿闘争には騒乱罪適用(1968年10月21日)、戦後の治安維持法と言われる破壊活動防止法が適用(1969年4月28日)されるような大きな闘いまで発展しました。更に、自衛隊内でも小西誠三曹が自衛隊内での民主化を訴えて決起しました。

そのように沖縄・本土を貫く凄まじい闘いの中でとうとう佐藤栄作内閣は沖縄を本土に返還することを約束せざるを得なくさせたのでした。

その沖縄の施政権返還の日が1972年5月15日でした。しかし、その返還の日に沖縄に自衛隊が派兵されるということが始まったのです。1972年4月28日には5名の自衛官が沖縄派兵に反対して決起。

「2」 5・15で何が変わったのか

結論から言いつても変わっていません。否、返還前よりも悪くなっています。アメリカ米軍だけでなく、自衛隊も沖縄を蹂躪もみぢしているのです。沖縄戦で日本軍は沖縄住民に一体何をしたのか。日本軍は沖縄住民に対して集団自決を強制したのです。その旧日本軍となんら変わらない体質を持った自衛隊の沖

縄派兵に対して沖縄住民が認めるわけはありませ  
ん。核は沖縄から撤去されたのかと言えは全く不  
透明です。米軍による沖縄での犯罪は全く減って  
いません。そもそも沖縄県民集会が始まったのも  
米軍による女子高校生の強姦事件(こうかんじけん)で  
した。米軍兵士による犯罪事件は沖縄に米軍が  
居る限りなくならないものです。人を人とも思  
わず殺す訓練を受けてきた兵隊たちに人として  
の心を持ってというのがそもそも間違っている  
のです。基地犯罪は基地をなくさない限りつき  
ものです。

「6」 5・15沖縄行動に参加する僕らは何を  
理解し、何をすべきなのか

そのような沖縄で「精神病者」が大量に発生  
するのは必然です。沖縄戦で生き残った人々が  
死んでいった家族たちに自分だけが生き残って  
申し訳ないと思ってしまう人々が、沖縄戦の地  
獄を見た人々がアルコールに依存して現実  
逃避するの誰が非難できるだろう  
うか。

そもそも  
も沖縄は



沖縄にヘリパッドはいらない!

琉球時代から貿易で成り立ってきた島だった。そ  
ういう沖縄で米軍が蹂躪(じゆうりやく)していることで産業が成り  
立たず労働者は本土に出稼ぎしたり、移民すること  
で生きるしかなかった。集団就職で本土に移って  
も沖縄差別(おきなわべいり)に遭って発病。米軍の基地犯罪で発  
病する人々も多かった。  
こいつう沖縄に僕らは一体何をすべきなのか。本  
土に居る僕らは何をすべきなのか。

■ After (事後研修レポート) ■  
沖縄で学んだこと

今回の沖縄研修旅行では辺野古の新基地建設反対  
運動、高江のヘリパッド基地建設反対運動、読谷村  
の象の檻(かご)と言われていたいわゆる楚辺通信基地跡  
地、読谷村(よみたんそん)のチビチリガマ、シブクガマ、名護市の  
チュウラ海水族館、ひめゆりの塔、鉄血勤王隊・健児  
の塔、平和の楚(へいわのそ) (平和記念公園)を見て回り、そし  
て沖縄5・15県民集会に参加しました。

例年と比べるとかなり強行軍でしたかね。  
でも、今回の僕の学んだものは、沖縄には「精神  
病者」が多いこと、そして発病率も高いことが改め  
て理解できました。その原因は実際に調査しないと  
明らかかなことは言えませんが、沖縄の持つ歴史、社  
会の現実を考えさせられました。  
差別と迫害、抑圧の歴史、そしてその構造は現在

も続いています。社会運動、労働運動を担っている  
人の中にも多くの「精神病者」がいる、そして病氣  
を抱えながら、仲間が支え合いながらじつくりと  
闘っていることが理解できました。

とは言え、まだまだ運動内部には病氣に理解を示  
せないところが多いことも事実でした。

沖縄での開放精神医療の先達・島医師をはじめ沖  
縄出身の精神科医師達の協力で「精神病者」解放の  
動きも少しずつ動き始めていることを話だけでは  
確認できませんでした。知念医師などの協力で立ち上  
ったアゴラ。支援法下で地域活動支援センターとして  
再生し、那覇市の減額攻撃を跳ね返して頑張ってい  
るなど健在なようです。

どのような運動も労働運動を中心にしつつも精神  
科領域も含め、様々な分野の裾野の広い人々に支え  
られていなければ、一瞬たりとも成り立つものでは  
ないことを改めて感じました。

新会員紹介

自己紹介

よっちゃん

みなさん、初めまして。よっちゃんと申します。

ほっとス

ペースに入

会したの



は、今年の1月頃なので、もう半年ぐらいい、ほっとスペースのみなさんと一緒の時間を過ごさせて頂いています。

私は、アスペルガー症候群という発達障害と、双極性感情障害という精神病を持っているのですが、ほっとスペースに居ると、自分の病気や障害をあまり意識することがありません。多分、ほっとスペースの職員さんや会員さんが、そういう病気や障害とあったこととても寛容だから、和やかない雰囲気保たれているんだと思います。

私の年齢は26才と、ほっとスペースの中では、若い部類に入るようです。ですので、これからのほっとスペースのために、若い発想とエネルギーで、前向きな貢献をしていきたいと思っています。特技がマッサージなので、職員の方や会員の方にマッサージをさせて頂くことがあるのですが、一通り終わったらあとに、「楽になった。ありがとう」と言われると、これからも、こういう形で少しでもほっとスペースに貢献できればとの想いが強くなります。

あと、私は、ほっとスペースの運営委員をやらせて頂いています。最近では体の調子があまり思わしくないので、総会に出られなかったり、運営委員会に出られなかったり、至らないことばかりですが、貢献していきたいという想いは強く持っていますので、皆様には、長い目で見守って頂けるととても嬉しいです。以上、まだまだ、若く、至らぬことだらけの私ですが、皆様、これからもどうぞ、よろしくお願ひ致します。(ブログも書いて

ます。読んでくださいね。「よっちゃんのハッピーパラダイス」で検索してください。アドレスは、<http://yhappyparadise.blog.fc2.com/blog-date-20090504.html> (ホ))

### 自己紹介

大目 間象

皆様、初めまして。大目 間象と申します。ほっとスペースに入会したのは今年の1月ごろです。私の趣味は川沿いをサイクリングすることです。浅川、谷地川、多摩川…。本当に川のが好きで、自然を探索したり、道行く人と触れ合ったりすると、沈みがちだった心がスカッとします。ほっとスペースでも自然の中に出ていくこ



とが増えています。皆さんもほっとに入って川友達になりませんか。

### 《プログラム参加しポート》

●日帰り旅行 サンシャイン水族館

山口咲子

4月15日(水)に、池袋のサンシャイン水族館と展望台に行ってきた。最初に展望台に登り360度広がる都会の大パノラマを楽しみ、壮大な眺めを目で楽しんだ。富士山は見えなかったけれど、東京ドームが小さく見えた。次は水族



館に行った。海はもろろん陸や空からもいろいろな生き物が集まり暮らしていた。たくさん驚きや感動、興奮を覚えた。アシカショーを見れたけれど、ペンギンパレードは風が強くて中

## 充実のプログラム参加しポート

参加してよかった。楽しかった。癒された。

止になったことは残念だった。4時ころまでに水族館にいたけれど、その後京王八王子駅で解散となった。

●ルーブル美術館展に参加して

堀部正

上野のルーブル美術館展に行きました。「精神病者」減免で無料です。前もって勉強をしてから観覧の予定でしたが、間に合わず残念でした。また、観覧する予定です。六本木の国立美術館のルーブル美術館展にも行ってみたいですね。上野の方は17世紀のヨーロッパをテーマにしたものでした。ルネサンス、大航海時代、ハプスブルグ家の地肉の争い、東インド会社などで莫大な富を築き上げたオランダなどなど、フランス革命が起きる100年前までの貴族社会全盛、ブルジョア階級の台頭し始めた100年の絵画の主だったもの(?)が展示されていた。興味深かったのは、戦乱のヨーロッパにいた庶民である農民やその子供たちの貧しい様を描いた



ウーン、本物だ!

絵が写実的ではないけれども、描く対象になっていたことでした。

●阿修羅展に参加して 朝野善果一

昨日阿修羅展を見に行きました。もうちょっと仏教的説明が色濃く欲しかったです。阿修羅像の眼はすごかった、顔立ちも人間っぽく、それでいて神秘的な人間の理想像を表現していた。運慶の作った仏像がなんとも言えずよかったです。1,0500円の食へ放題お寿司に行きました。おいしかった〜!!



ウーン、イケメンだー

●五日市探索日帰り旅行 朝野善果一

去る5月20日、みんなで五日市へ森林浴に出かけました。20名強参加しました。

始めは小峰公園。ココでご飯を食べる。原っぱには蛇が出るから注意。一人で自然を感じようとして、ちよっとみんなとは離れた。一人で林に囲まれた木製のテーブルと椅子に腰掛、水とサンドイッチを食べる。できるだけ自然を感じようとしたんですが、やはりその感覚はよくわからないかな、

緑と太陽が綺麗でした。足元にアリ地獄の巣が

いっぱいあってびっくり、久々だな、アリ地獄、。なんとなく普段見過ごしているものに気づけたようであれしかったです。

次に温泉にいきました。温泉には入らず、足湯につかりました。足湯キモチよかったです。一人タウソした人が居て、冷房の効いた、あまみ椅子のある畳の部屋(食事する所)にいて一緒に話したりしてその後3人くらい集まって、いろいろ話したりしました。次におやき屋さん、あんこがおいしかったです。水を補給したり、。次に広徳寺、凄く大きな木の下で緑を感じました。自分の病気の症状が出ないように状態を良くしよう良くしようとして心は焦っていた。ただ影になった緑の合間に見える。太陽の光を浴びた新緑が綺麗で、それを見る事により水を飲むことで感じる潤いとまた別の眼に潤いを感じました。そして帰ってきま

した。緑と太陽の恵みを感じました。ありがたかったです。自然と触れ合う、。そういう気持ちで育てる事



公園で一休み。新鮮な空気を吸いました。



がありました。500円補助が出たのでとても助かりました。自己負担は80円。原爆関係の絵はどれもすごく迫力がありま



圧倒的な迫力。二度と核を使用してはならない!

は生きて行く上で必要なことかもしれない。自然を感じる、学ぶ、潤う、現代社会の中で生きていく中で、気づくことができない大切なことを五日市は僕らにプレゼントしてくれる気がします。

### ●丸木美術館に行ってきました

渡辺 広海

6月3日、私の通っているほっとスペース八王子の皆と東松山まで日帰り旅行に行ってきました。自然がいっぱいでとてもいいところでした。見に行ったのは足尾鋳毒の記念館です。障害者割引で全員半額で入れました。実質的にはほっとから全部お金出してもらったので無料です。

お昼は「爆弾ハンバーグ」でハンバーグランチを食べました。

した。「ご夫婦で絵を描いていらっしやうたようで、とても大きな絵がたくさんありました。館内はわりと狭かったです。近所は静かですが、自然がいっぱい、休憩所もゆったりとしたところで静かに過ごせました。



美術館は自然がいっぱい!

原爆で死んでしまった人はどんな苦しい思いをしたのでしょうか? そんな思いを馳せながら絵に入っていました。原爆以外の絵もありました。どれも独特なタッチでした。プロの絵描きさんはすごいなあ。行きも帰りも車でいったので、移動は楽でした。また機会があったら見に行きたいです。

### ●かんぼの宿・ワイナリー

日帰り旅行に参加して

山海 珍味

去る6月10日、石和温泉にある、ある時期話題となったあの「かんぼの宿」とワイナリー見学の日帰りの旅行に行ってきました。多くの会員の参加のもと、2台に分譲して中央フリーウェイ(中央高速のことです)で一路、一の宮インターをめざしました。びっ

たり12時前には一の宮インターを出ました。山梨に来たからには、やはり「ほとう」を食さねばという意見が多数を占めたので、ほとうの専



温泉もグー、ワイナリーもそれなりでした。

門店で風食を取りました。おなかいっぱい皆満足したのちに、近場のワイナリーへ直行しました。ワインの試飲もあり、それぞれ堪能した後、ほろ酔い気分でかんぼの宿の温泉へ、どブーン。ゆったりとした時間を満喫して帰路につきました。よい一日を過ごしたと思います。

### ●国立新美術館

訪問記

去る6月15日、六本木の国立新美術館で開催されていた日本自由画壇展に行ってきました。自由画



印象的だった北浅川を描いた絵

壇展は、墨絵が多かったですが、そこに色彩で表現している作品も多く、楽しませていただきました。少し疲れた会員の方もいましたが、それぞれの作品を堪能しつつ、六本木の国立新美術館を後にしました。(編集部)

### ●ボウリング大会 参加しポート

6月23日、ほっとスペース八王子恒例のボウリング大会が行われました。20代の若者から「アラカシ」(還暦越えの方)までバライティに富む年齢層の会員が、



Go、Go、ストライク!

ゲームに熱中しました。さあ、誰がトップを取るかなと見ていると、さすが20代の会員は若々爆発、ストライクを連発(?)とまではいかなかったけれど、快調にとばしていました。おじさんたちも負けじとがんばり、途中リタイア組みも出ましたが、2ゲームをばっちり楽しんで、SAP日野(ボウリング場)を後にしました。参加された皆様ご苦労様でした。来年もまたやりましょう。

(編集部)

### 《賛助会総会報告》

6月7日、八王子市のクリエイイトホールにて

## 2009年度賛助会総会開催さる

2009年度の賛助会総会が開催されました。全国から多くの方の参加をいただき、ほっとスペースに集う精神障害者の抱える問題点・課題やほっとスペースの運営上の方針について活発かつ真剣な議論をしていただきました。誠にありがとうございます。誌上にてではありましたが、厚く御礼申し上げます。さて、本号にて2009年度の賛助会の活動方針を掲載いたしますので、ぜひ一読ください。

(編集部)

### ●2009年度活動方針

昨年度の総括を踏まえ、今年度の方針を立てていきたいと思えます。方針の基本的な柱について、以下にあげていきます。

#### ①2009年度活動方針の柱

- ① 賛助会会員の拡大
- ② 賛助会活動の強化
- (ア)「ほっとスペース八王子」運営体制の強化補助(講演会・学習会の開催など)
- (イ)「ほっとスペース八王子」の活動強化の補助(全国規模の

センターとしての機能充実化、情報発信活動としての賛助会通信発行、「精神病者」解放理論の形成など)  
③ 家族懇親会の活動強化

昨年度は大幅に会員数が増加しました。会員が増えたことにより、これまでより多彩な会員獲得、寄付金獲得活動ができるようになりました。昨年と同様、賛助会が拡大していくための活動を継続していくと同時に、「ほっとスペース八王子」本体の運営体制を強化するための活動を行っていきます。また、懸案となっている通信の発行についても、今年度は確実に取り組んでいきたいと思えます。ほっとニュースの1コーナーとして賛助会の通信を掲載していきますので、多くの方からの原稿のご協力をよろしくお願い申し上げます。

#### 家族懇親会

も今年度は開催したいと思えます。例えば参加する方が少なくても、継続的に開催することで、「ほっとスペース八王子」会員の



ご参加、誠にありがとうございます。

安定的な通所にもつながりますし、家族の口コミによる「ほっとスペース八王子」会員拡大にも結びつくと思われれます。また、様々な情報を共有する場を会員家族に提供していく必要性があると思います。その他、事務局体制を強化していくための役員人事案や提案、議論をよろしくお願い申し上げます。

2009年度賛助会役員は左記の通り決まりました。よろしくお願いたします。

代表	岡口 雅子
会計	大口 昭彦
会計監査	瀧島 正好

### 《ほっとスペースから賛助会への要望》

いつもほっとスペース八王子へのご協力、誠に有難うございます。事務局として、賛助会の皆様へ要望したいことは以下のとおりです。

- ① ほっとスペース八王子運営体制強化へのご協力
- ② ほっとスペース八王子の授産事業へのご協力
- ③ 研修旅行へのご協力

①は、賛助会総会の議案書にもあるような内容です。ほっとスペース八王子での学習会の講師や、講演会での講師など、ほっとスペース八王子の活動方針を達成するために必要な、知識や意識などを醸成するご協力が頂ければと思います。また、学習会という場だけではなく、日中ほっとスペース八王子にいらして、みんなの話を聞いていただいたり、いろいろな話題を提供していただけたら、と

いったご協力も頂きたいと思えます。

②につきましては、会員の方の要望では、もっと仕事をしたい、というものが多くあります。ほっとスペース八王子でも引き受けられるようなお仕事をご存知でしたら、ぜひご提供して頂ければ、と存じます。これまでやってきた仕事としては、リーフレットの作成、通信物の印刷・発送、清掃作業や市役所庁舎内での軽作業などがあります。また、ほっとスペース八王子のニュース作成でもやってきている、パソコンへの文字入力も請け負うことができると思います。

③につきましては、事務局というよりは会員からの要望です。いつも研修旅行へのご協力ありがとうございました。研修旅行がある時には、参加者の負担と賛助会からの補助によって実施できたという経緯があります。つきましては今後とも会員からの継続の要望が強い韓国研修旅行の継続・発展のためにもさらなるご協力を頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 《八障連主催 第2回議員懇談会報告》

4月23日、八障連主催の議員懇談会が開催されました。八王子市議会の議長・副議長を含め15名の議員に参加していただきました。



多くの議員の方に参加していただきました。

今回は昨年が続いて2回目の開催となりましたが、八障連から、①小規模作業所の法内移行に関する問題 ②都立小児病院移転後の地域小児医療問題 ③長房通所センターの移転問題、④福祉部をはじめとする市職員の人事異動に関して(専門職員の育成)、⑤差別禁止条例の制定に関する問題 ⑥未活用施設の任意団体への貸し出しについて、の6点について問題提起をしました。多岐にわたる問題提起

## 八障連主催 第2回議員懇談会報告

であり、質疑応答の時間が十分に取れなかった点が惜しまれましたが、今後の解決に向けて、前向きな議論が

できたと思います。

ほっとスペースからも朝野善果一さんと大目聞象さんが出席し、短い時間ながら、①の小規模通所作業所移行に関する問題について発言しました。自立支援法の法内施設へ移行できない作業所の問題や、精神障害の場合のたまり場的作業所の必要性を指摘しました。

いま、世界同時不況や、国の財政破綻の中で格差社会化が進み、障害者福祉や高齢者の福祉が崩壊していく流れが見えていますが、こうした懇談会での話し合いの結果、私たち障害者の意見・思いを行政に反映させ、すこしでもこの流れに棹指していくことができればいいな、また、今後八王子市において「障害者差別禁止条約」制定の運動が取り組まれるというアピールがヒューマンケア協会の中西氏からありました。参加された議員の皆さんが障害者の立場を十分に理解していただき、ともに実現に向けて前進できる取り組みができればいいなと思います。

(文責 編集部)



「私」と「ほっとスペース八王子」と「精神病」・・・そして闘い、「障害者」解放と人間解放!の熱き情熱をとりもどせー!!!」

問宮 久子

(2) わたしと「障害者」との出会い

私は、1970年くらいから、「障害者」解放闘争に関わってきました。三多摩には多くの「障害者」の施設がありました。今こそ、自分で部屋を借りて、介護者と共に独立して暮らす人もいますが、その当時は、圧倒的に多くの「障害者」は施設で暮らしていました。私の「障害者」との初めての出会いは、久留米園闘争です。久留米園闘争とは、久留米園という施設で職員が女性の介護をするとき、生理の始末が大変で手間がかかるという事で、女性の「障害者」全員の子宮を取ってしまうという事が主に共産党の職員を中心にやられようとしました。どう考えても許し難い「障害者」特に女性「障害者」差別です。これに対して今はもう亡くなりませんが、皆川さんという女性「障害者」(彼女は特に重度の「障害者」でストリチャーに乗りつねに横になって介護者に押しももたせて移動する状態)を中心に、打ち出した方針は「そんな差別者の介護は受けない!介護拒否する!」というものです。これ

は、「障害者」を一人の当たり前の人間として見ない事への、そして「そんな差別者の介護を受けるぐらいなら死んだ方がましだ!」と言う激しい怒りでした。この言葉を実際に聞いたとき、彼女は怒りに身を震わせていました。私は「障害者」差別とはこんなに深いものなのかと、始めて知りました。しかし、全員介護者なしでは日常生活が成り立ちません。

当時「青い鳥」というボランティア組織、とか社会福祉事業大学の差別構造問題研究会(社事大差講研)、三多摩反戦などが、施設の「障害者」の呼びかけにこたえて、介護に入りました。私は、三多摩反戦のなかの立川反戦の一員として、介護に入りました。これが私の「障害者」との出会いでした。若かったし最初は本当に何もかにもが分かりませんでした。一言で介護と言っても、一人一人全く違います。中には言語障害のひとつもいます。介護のやり方、言語障害のある人は、意思疎通ができにくく、しかし接するたびに慣れてきて最後は言っている内容が分かるようになってきました。その喜びはひとしおです。それは言語の壁を打ち破ってわかり合えるようになる。闘いの成果ですよね。本当にうれしかったです。皆川さんとの思いでは、始めて私が介護を頼まれたとき皆川さんは「怖い」と言いました。確かに私は初めてですし、まだ若かったしそういうわけても仕方ありませんが、「精一杯しますのでよろしくお願いします」といい彼女を抱き上げました。その後、皆川さんはある小集会で、「自分は若い労働

者を傷つけた」と自己批判していましたが、私は「そんなことはないです。介護は、自分の命を預けるのですから、怖いときはそう言う権利があると思います」と二人で涙ながらに話しました。

闘争はまずは、子宮を取ることをやめさせることを目標に、差別徹底糾弾のたたかいでした。結果は子宮を取るのを撤回され、謝罪を勝ち取り、圧倒的に勝利しました。そして、ボランティアが入っていた人が、職員として、入るとか大きな成果を勝ち取りました。

この闘いは子宮をとる事から始まり、直接は、職員糾弾したのですが、同時に、「健常者」そして鋭く、社会を糾弾するものとしてありました。この矛盾が、一つこの園だけの問題ではなく、この社会全体も矛盾としてある、として、大きく社会の矛盾と闘い、社会変革へと「障害者」の意志として動き出して行きます。(続々)



網走 健次

樋口裕一氏の「大学受験、読む大小論文、入門編、4人権」に少年法と死刑について書いている。

樋口裕一氏は、犯罪少年を追いすぎると「幼いうちにやれること(悪いこと)を全部やっちゃえ」とか、死刑制度がなくなると「どんな悪いことをしても処

刑されないなら、やりたい悪いことをやっちゃえ」という風潮が起きたら大変だと言っている。ほとくの結論は「子供の喧嘩より大人の喧嘩のほうが怖く思えた」という幼い女の子の意見に同感だ。ア

フガニスタン民衆法廷(ヒデオフシシユを裁こうパート2・フシシユ有罪収録)

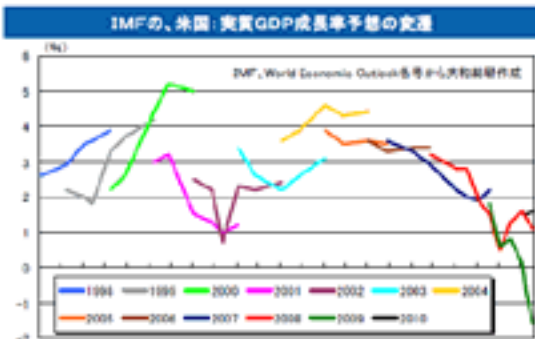
権力による戦争のほうは少年犯罪に比べたらとてもなくダメージが大きい。永山則夫君は幼いころからまともに育てられなかった。二十歳前に連続殺人事件を起こした。そして少年法を適用されずに処刑された。しかし、昭和天皇は、十五年戦争の責任者なのだ。それが天寿をまっとうしている(世間は戦争は不可抗力と意識している。必要悪だということも多い)。永山君と昭和天皇とどちらが罪が重いのだろう。

### 雑草の経済学

網走 健次

資本主義が革命によらずに自壊する過程を雑草で例えてあらわす。

自己維持と成長のエネルギーが保証されていれ



米国のGDP予測図。アメリカは崩壊するのかわ?

ばよい。しかし、獲得したエネルギーが自己維持にほとんど限られ、成長のエネルギー獲得が困難な時、先を見通して成長を止める。タンポポだつたら綿毛のついた種を飛ばす。資本主義だつたら資本輸出(帝国主義)をする。

成長しすぎて自己維持のエネルギーが獲得できなくなつたら資本主義は崩壊する。(現実には輸出した資本からうわまえを求めて延命するのだが)

### 共産主義の流転

網走 健次

共産主義の定義だが、ほくは共産主義即生産手段の共有とらえている。ほくはそれ自体(生産手段の共有)は正しいと思う。しかし万物は流転するのだ。ほくは、共産主義の流転を書く。ほくが共産主義が正しいという理由は、生産手段を共有にすれば民主主義が盤石になると思うからだ。

共産主義を阻むものはまず、伝統的なモラル(宗教)だと思ふ。しかし、宗教だつて間違っていない。では、何故共産主義と宗教が敵対するのか。宗教の黒幕に生産手段の独占がいるからだ。マルクスが軽はずみだつたのか、反共主義者が言葉尻をとつたのか、「宗教はアヘンだ」が共産主義をたたく強い口実になっている。

共産主義を阻む第二のものは、人民の無知だ。生産手段の概念を解けない人も多いだろう。第三に共産主義の知識があつても個人的な利益に利用する人もいると思ふ。マスメディア、学校、宗教等で反共産主義PRが行われている。こうして人民の教育がい

きわたっても過去の争い事などで共産主義に悪いイメージが残ってしまう。更には共産主義とか革命とかは貧しい人民のテーマで今の日本のような裕福な国(とは僕は思わないのだが)は無関係だということもいる。

共産主義の歴史を振り返ってみると、マルクスは西欧の大工業国を想定していた。しかも動力は石炭だ。しかし、最初に共産革命が起きたのは農業国ロシアで、その後動力の重点が石油に移行している。レーニンたちはドイツで共産革命が起ころのを待っていた。しかし、期待がはずれて敵対するナチズムが天下を取った。そこでロシアは一国共産主義(スターリン主義)に変容する以外になかった。第二次世界大戦が終わり、ソビエトは風前のともしびととなったが、意外な手助けが現れた。毛沢東だ。中国の国共内戦で中共が勝つと予想する専門家はあまりいなかった。ところが中共が勝ち、国民党はGHQ統制下の台湾に逃げた。ここから共産主義運動の主流は労働運動からゲリラ戦に移った。ソ連はアメリカとの軍拡競争に負け、現在共産主義は冬眠している。

共産主義とは生産手段(資本)の共有だと言ったが、現実には共産党が天下を取った国は、共産党が資本の独占者になっている。共産主義は階級支配の

廃絶を言うが自分が天下を取ると共産党自身が支配階級になる。またチベット仏教の最高位のダライラマ十四世は共産主義も正しいと認めている。しかし、中国共産党の恐怖政治は許さない、そのうえでチベット民族の立場を認めてくれと言っている。ダライラマ十四世は、自分が最後のダライラマで自分の死後チベットは民主主義国になるのを望んでいる。必ずしも中華人民共和国から独立しなくてもよいと言っている。

《日々雑感》



日々雑感

群馬の高齢者施設での火災事故 堀部

12年前に「ほっとスペース八王子」(旧八王子・赤堀さんと共に闘つ会)の会員が職場でクモ膜下出血で倒れ、それ以降、意識は回復したものの全身不随状態となり、生活保護で立川市のある総合病院に入院していました。しかし、立川市はその彼を日ノ出町のいわゆる「姥捨て山」病院に転院させ、彼はその病院の精神科病棟に収容されていました。大部屋に12人入れられており、男女一緒でした。彼以外

はほとんど高齢者でした。立川市の総合病院と違って交通事情が悪く一年に一回お見舞いに行くのも難儀な不向きでした。三年目にお見舞いに行った時、彼はSARSに罹患していました。

しかし、彼は大部屋から隔離されておらず、12人収容されている高齢者の中に入れられたままでした。彼のベッドの周りには申し訳程度にカーテンで仕切られていて、ベッドサイドにはプッシュ式の消毒薬が置いてあるだけでした。

その彼が亡くなったと連絡があったのはその数ヶ月後でした。49歳でした。生活保護の彼には葬儀はなく、病院から火葬場まで直行でした。彼の遺体を見ると目がかっと見開いていて、喉に何かを詰まらせた状態のまま窒息死したようでした。彼のこのありさまを見て

「ほっとスペース八王子」の仲間たちは生活保護になるとこういうことになるのかと仲間同士の支えあいの大切さを確認しました。

群馬の高齢者施設での火災事故は一過性の事故ではありません。

12年前の立川市が行ったことと全く同じです。「姥捨て山」病院が「姥捨て山」施設に変わり、日ノ出町が群馬に変わっただけで考え方は何も変わっていません。否、もっと悪くなっています。

「精神病患者」の行く末を見ているようです。黙っていたら、この施設のように退院した「精神病患者」は山奥の人里離れた施設に放り込まれ、人知れず一生を閉じていくことになりかねません。生保が打ち切られたら、まさに野垂れ死にです。

介護施設として正式に登録すれば設備投資にお金がかかり過ぎるので、正規の介護施設ではなくアパートのような集合住居にパートタイムの女性アルバイト管理人が交代で夜間は住み込んでいるということになるんだろうな。

こんな施設が群馬の人里離れた片田舎で何故に成り立っていたんだろう。

その施設の収容者に墨田区の福祉事務所が管轄している被生活保護者がかなりの数いたというのだから施設設備や管理運営がどうあろうと墨田区の福祉事務所のお墨付きの施設だったと言われても致し方ない。こんな怪しげな施設が墨田区の福祉事務所のお墨付きを得られるという事実、現実を僕らは問題としなければならぬと思います。

### 人権意識、権利意識を高めよう

植松 恵樹

かつて精神病院では患者への暴力や強制労働(リハビリや就労訓練などと言って)が当たり前前の時代

があった。患者自身や支援団体の抗議や運動によって今では耳にすることはなくなった。しかし、内部では何が行われているかは外からは分からない。これには、病院などの労働組合が十分なチェック機能を果たすことが重要だと考える。

そして現在、社会の進歩もあり「患者様」というようにまでなつて、昔のようには逆戻りするのではないと思っていた。

しかし、そうでもない。たしかに病院や社会福祉法人などの行政の監督下にある所は一定のレベルにはあるだろう。だが、昨今では「貧困ビジネス」などと言って、たとえば生活保護の老人で行き場のない人々を相手に金儲けをする輩がいるのだ。15畳の大部屋に7人から8人も詰め込んで、食事も3食で3000円以下というようなありさまなのだ。まさに現代の姥捨て山だ。生保から10万、介護保険から37〜38万(要介護5をテッチあげて)で、一人から50万近くとるといふ商売なのだ。そこへ身寄りのない人を送り込んでいのが福祉事務所(市役所職員)という構造なのだ。

ほっとでも、生保、年金の人が大半だ。年齢の高い人もいる。「このような施設ならざる施設」



闘いに立ち上がる非正規労働者達

へ送り込まれないようにしなければならぬ。そのためには、普段から人権意識、権利意識を高めなければならぬ。そのためになにをすべきか? ほっとの中で、プログラムの中で考えていこう。人間にとって一番大切なものは「自由」だ。それを阻むものすべてに対抗しよう。権利意識なくして真の自由はありえない。何もしない自由ではなく、被差別者との運動的共闘や社会や政治へ目を向けた運動への参加が、現代社会に対する対抗と自由であろう。

### 未来展望・農的自給自足

「コミュニティがこれからの主流?!」  
よっちゃん

今は、未曾有の経済危機と言われています。

アメリカの金融危機に端を発し、まずは車産業がアメリカ、日本ともに、大打撃を受けました。そして、その余波は、日本国内では他の製造業にも影響を与え、今や、アニメなどの娯楽産業の世界にも影響が及んでいると、新聞で読みました。その結果、国民(日本)だけではないでしょう(の)財布のひもは固くなり、今後、物がどんどん売れなくなることが予想されます。

でも、今の世界的な経済危機を嘆く前に、今までの世界の経済のあり方は、本当に正しかったのだろうか?と疑問をもつて欲しいのです。本当に人間にとって無理のない仕組みだったか?地球にとって無理のない仕組みだったか?

日本は、農業に始まる第1次産業を縮小する代わりに(例で言えば、顕著なのが減反政策)他産業に力を入れてきました。家電、車、テレビゲーム、その他娯楽等々……

そのため、日本の食糧自給率は40%を切るまでになりました。

「じゃ、早い人は、何かが間違っていることに気づくはずじゃ。」

食料自給率40%を切るということは、輸入が全く途絶えた場合、もしくは想像上の話で、国が日本だけだった場合、日本国民の60%は食へ物に飢えてしまうということじゃ。

これはかなり、おかしいことだと思いませんか?

輸入できてるんだから、いいんじゃない!という見方もあるでしょう。

しかし、日本国内の食料需要を満たすために、どれだけ無駄なコストがかかっているか、考えて見て欲しいのです。輸入元の一番、大きな相手国は、アメリカとオーストラリアでしょう。ここで、世界地図を思い出してみましよう。

こんなに遠く離れた場所から、大きな船を使って食料を運んでいるのです。大きな船を使うためには、大量の石油を必要とします。

石油は今はまだ、枯渇に至るような危機にはなっていませんが、すでに多くの油田が空っぽになっています。今は大丈夫でも、いつ石油がなくなるか、誰にもわからないのです。

そんな、綱渡り状態で輸入を続けているということ。そして、輸入を続けないと、国民の食糧需要をまかなえないという、今の日本の現状。フランスは食料自給率が120%くらいです。

もし、仮に、他の国がなくなっただとしても、自分

# 競争から共存へ・地産地消へ



たちの国だけで、最低限、生きることではできません。それを考えたときに、今の日本の食糧自給率の低さがどれだけ危険で、かつおかしいことが、浮き彫りになると思います。それを今までは国全体をあげて、工業や娯楽を発達させるかわりに、食料自給率を下げてきたのです。

そして、「ここからが面白いのですが、その明らかに間違った流れを止すかのように、工業界で派遣切りが起き、第1次産業に人が流れ出しています。」

それだけではなく、田舎で自給自足の生活をしたいと思つ、定年退職者や、若者が増えています。

さらに、世界的なムーブメントとして、「エコビレッジ」という、農の自給を中心に据えた、皆が支えあって共同生活をするスタイルが注目され、また、実際にそついつ生活をしている人がどんどん増えてい

ます。

つまり、今、世界で農を中心に、確実に新しい流れが起きはじめています。

ほくは今の時代は、確実に世界の、そして地球の転換点なんだと思います。

それはキーワードでいうなら、  
・競争ではなく共存の社会へ  
・自分の食べ物は自分たちで作って、安心して自分たちで食べる、地産地消社会へ(食とはいのちを作り、いのちを

頂くこと)

- ・個性を輝かせ、自分の能力を最大限に発揮できる社会へ
- ・機械や他者に頼らず、自分の手でできることは協力しあって、自分たちでできるようになる社会へ
- ・欲望に囚われず、全てのこと感謝し、必要最低限のもので満ち足りる社会へ

日本でも、農へ目覚める人がいっぱい出てきていま



す。自分もその一人です。

今後、この未曾有の大不況と言われる状態が、さらに悪化するのか、また回復の兆しが見えるのかは、わかりません。ですが、どちらにせよ、確実に世界は、農を中心とした安心の社会へと変わっていくでしょう。みなさんに伝えたいことは、その兆しを(チャンス)を見逃さず、常に情報収集することを怠らず、早いうちに農を中心とした生活にスムーズに移行することです。もしですが、今後この大不況がさらに悪化して、社会が混乱状態になったとき、一番強いのは、食べ物を作っている人だからです。

みんなが生活に困っていて、食料すら買えないような状態に多くの人が追い込まれたとき、家電は売れるでしょうか? 娯楽にお金を使う人はいるでしょうか? アメリカやオーストラリアに、他国に輸出するようなエネルギーが残されているでしょうか?

悪いことを予想するのは、ほくも嫌いだし、悪いことを考えると、悪い状況を作り上げます。

しかし、だからこそ、悪い状態を予想した上で、そうならないように今から、できることをポジティブに最大限やっておくこと。それが最善だと思えます。では、今、できることは何か?

シンプルに言えば、いますぐに農を中心とした生活に移行することです。これは、一朝一夕にはいきません。長い時間が必要になります。だからこそ、今すぐでも、行動に移したほうがいいのです。

今、自分のできることは何か?

今、ほくがやっていることは、農的コミュニティを

見出し、自分のこれからの方向性を決めることです。例えば、既存の農的コミュニティに参加して自分のできることを最大限やるのが最善かもしれないし、知り合った仲間と新たに農的コミュニティをつくりあげるのが最善かもしれない。

色んな可能性を考える中で、自分のできることを無理せず最大限、やっています。

ここでこういうことを発信するのも、その一環です。この世界ができるだけスムーズに、農を中心とした社会に移行して欲しい(前述したように、これから農が重視されるのは必然。そこまでのプロセスで混乱が起きるのを最小限に抑えたい)というのが、今のほくの想いです。

全ての

- 人と森羅
- 万象、動物や草木
- や石や土
- が調和し、愛に満たされます
- ように。
- 心から願っています。



豊かな実りをもたらす大地

### 通信大学生日記(1)

さくら桃

平成21年4月から、日本福祉大学通信制に入学しました。そもそも大学進学は希望していましたが、学びたい分野がなかなか見つからず悶々として16年。昨年1年間、ほっとスペースで活動してみても、障害者福祉を深く学びたいと思い、インターネットでこの大学を知り入学しました。

今年1年生。まずは「福祉社会入門」「医学概論」「社会保障論」「精神保健福祉論」など22単位取得を目指します。勉強は毎日1時間(時間がある日は2時間)自宅でインターネットのオンライン授業を受けます。そして添削課題のテストを受けて、合格したら単元が終わるといった繰り返しです。最初は勉強時間の取り方に悩みましたが、今はようやく勉強が生活になじんだばかりです。

通信大学といえばスクーリング。今年は7月と9月にあります。特に9月のスクーリングは「スウェーデンと日本の障害者自立支援政策の比較」がテーマなので、今から自立支援法について条文や現状などを調べて学習しています。ほっとと入会から知った、障害者自立支援法の重大な問題点は何か?」を自分でしっかり調べて、研究していきたいです。



# 《創作コーナー・機動戦士ガンダム OO(ダブルオー)BY 渡辺 広海》

●機動戦士ガンダムOO(ダブルオー)とは株式会社サンライズが製作しているガンダムシリーズの最新作で、2007年10月より放映が開始されました。ガンダムシリーズ初の2部構成という形をとっており、現在は第1期が終わり、2008年10月から第2期の放映が始まっています。女性に熱狂的なファンが大勢おり、大変ヒットしている作品です。

## 《作者よりの》

これは毎週土曜、午後6時から放映されているアニメ、「機動戦士ガンダムOO(ダブルオー)」のショート小説です。一生懸命書きました。ちなみに私の好みはにロックオン・ストラトスというキャラです。

## 《主要登場人物》

### ◆刹那・F・セイエイ

主人公。ガンダムエクシアを駆る。まだ16歳の少年。テロリストであり、過去に両親を自分の手で殺した経歴を持っている。クルジスという国の出身。14歳のときにソレスタルビーイングに拾われた。

### ◆ロックオン・ストラトス

ガンダムマイスターのリーダークラスである24歳。長距離射撃を得意とするガンダムテュナムスに搭乗する。過去にテロリストに家族を殺された経験を持つ。

### ◆アレルヤ・ハプティズム

ガンダムマイスターの一人。変形機構を持つガンダムキュリオスを駆る。19歳。ハレルヤという人格を内に秘めており、人革連の超兵機関出身。子供のとき、生き残るために友人を射殺した経験がある。

### ◆ティエリア・アーテ

ガンダムマイスターの一人。ガンダムヴァーチェを駆る。ガンダムマイスターとしての使命をもっとも大切にしており、機密事項であるウェーダにアクセスできる。過去、年齢など、詳しいことは一切不明。美少女のような風貌を持っている。

## アザティスタンの皇女

刹那は考え込んでいた。あのアザティスタンの皇女、マリナ・イスマイルのすぐるような瞳が頭から離れない。なぜ自分はその女の前でガンダムマイスターであることを明かしたのか？なぜ彼女のことが気になるのか？恋愛経験など皆無の刹那には、理解しがたい心情が心に湧き上がっていた。

誰かに相談すれば、この心のもやもやは晴れるだ

らうか。

とりあえず刹那はロックオンの部屋を訪ねた。

「よう、どうした、刹那」

「実は……」

刹那はこの顛末を話した。

「それは恋だな」

「恋？」

刹那にとって、もっとも遠い存在の言葉に目を丸くした。

「姫さんは美人なんだろう？あ、お姉さんとかいるか？」

「いないと思うが」

「そうか。残念だな」

刹那は意味が判らないといった風に首をかきあげた。

「恋ならどうすればいい」

「決まっている。告白して付き合おうんだな」

「相手は一国の皇女だぞ」

「男と女の間になんか身分なんて関係ないと思うが」

ロックオンはいつもの調子で続ける。

「アドバイス有難う。とりあえず他の皆にも聞いてみる」

そついうと刹那はロックオンの部屋をあとにした。

次はアレルヤの部屋。

「アレルヤ・ハプティズム、聞きたいことがある」

「僕に？なんだい？」

「恋をしたことあるか？」

「えええっ!」

アレルヤは真っ赤になった。

「そもそも、そんなこと一度もないよ」

「そうなのか」

「刹那、もしかして恋してるの?」

「判らないが、ロックオンがそうじゃないかって」

刹那が答える。

「相手は?」

「アザティスタンの皇女、マリナ・イスマイルだ」

「えええっ!」

再びアレルヤが驚いた。

「刹那、それは不味いよ」

「ロックオンはそんなこと言っていないかったぞ」

「だって地球の武力に介入している僕達はただでさえ秘密を守らなければならぬのに、一国の皇女と付き合うなんて不味いよ」

アレルヤは身振りを交えていう。

「それもそうか」

刹那は納得したように頷いた。

「でも一応ティエリアにも聞いてみる」

「えええっ!」

アレルヤが再び驚いた。

「それは止めといた方が……」

「なぜだ?」

「だってティエリアは人一倍秘密を守ることに固執しているガンダムマイスターだろ? そんな話をしたら撃たれ殺されるかも知れないよ」

「ふむ、それも一理あるな」

刹那は納得する。

じゃあティエリアは飛ばそう。刹那はスメラギの部屋を訪ねた。

そしてこの顛末とロックオン、アレルヤのアドバースを話す。

「それは恋っていうより、お姉さん願望があるんじゃないの?」

「え?」

スメラギの思いがけない言葉に刹那は驚いた。

「貴方、兄弟はいないでしょう?」

「貴方、兄弟はいないでしょう?」

「貴方、兄弟はいないでしょう?」

「貴方、兄弟はいないでしょう?」

「姉……か。そうかもしれない」

「姉……か。そうかもしれない」

「姉……か。そうかもしれない」

「姉……か。そうかもしれない」

アザティスタンのマリナの元へ、小さなプレゼントが届いた。

マリナは何だろうと箱を開けてみた。そこには。

「俺の姉になってください。刹那・F・セイエイ」

クッキーの詰め合わせと共に、刹那からのメッセージカードが入っていた。

「姉……そうよね。私、刹那より8つも年上だもの」

マリナはがくろと肩を落とした。

「姉……そうよね。私、刹那より8つも年上だもの」

マリナはがくろと肩を落とした。

「姉……そうよね。私、刹那より8つも年上だもの」

「姉……そうよね。私、刹那より8つも年上だもの」

「刹那……そうよね。私、解放されるんだわ!」

並みの女の「みたいになれるんだわ!」

マリナはいそいそと返事をメールで送った。

「アザティスタンの皇子の座は貴方のものです。どうぞいつでも来て下さい」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

「この返事を刹那がどう受けとめたのか。知るものはない。」

## 《書評》

バシヤール×坂本政道

人類、その起源と未来

坂本政道氏をご存知だろうか。東京大学理学部物理学科卒業後、(株)ソニーに入社、半導体素子の開発に従事していたが、1980年代後半、アメリカに渡り、ヘッドハンティングされた半導体素子メーカーSDI社にて半導体素子の開発に従事した。その後ロバート・モンロー氏が開発したヘミシンク技術を用いた変性意識状態の研究に従事するために退社。世界で数名しかないモンロー研究所へミシンの公認アカデミートレーナーでもある。(著書に「死後体験」シリーズ、「わかりやすい絵で見る死後体験」、「SUPER LOVE」、「人は、はるか銀河を越えて」などがある。興味がある方は読んでみることをお勧めする)

この方が、2008年11月、バシヤール(ダリル・アンカ)がチャネリングする宇宙存在。バシヤール

とはアラブの名前で、指揮官、存在、メッセージとといった意味を持つという。)と対談するために渡米、その対話集がこの本だ。(村上春樹の「084」と同じくらいかどうかはわからないが)売れているようだ。



ワクワクすること間違いなし。

前回紹介した「ラー文書(「なるもの法則」とも通底する内容であり、振動数の上昇を目指す人へぜひ読んでおくべき本の一つであると思う。)(山海珍珠)

●「ほっとスペースハ王子」会員になろう  
 病気で悩んでいる人、苦しんでいる方へ。一人では解決できないときは、ほっとスペースハ王子の会員になろう。仲間が相談にのってくれるよ。お気軽に相談を。専門スタッフが対応いたします。

ほっとスペースハ王子

労働組合に加盟しよう

組合作り・労働相談。共に考え、共に解決しよう。就労できた「精神病者」も就労を維持するためにも組合加盟を訴えます。特に、「障害者自立支援法」下で施設の統廃合に伴って、福祉労働者はリストラの憂き目に遭っていると思われれます。就労支援するはずの施設が労働者の就労を奪うという論理矛盾を抱えた施設では「精神病者」「障害者」の就労を支援したり、維持したりすることが出来るはずありません。遠慮なくドンドロシ相談に来てください。

多摩一般労働組合

《編集後記》  
 128号をお届けいたします。梅雨も明けるといよいよ夏ですね。ほっとスペースにおきましては、若返った新体制の下、今年は夏キャンプを2泊3日で計画しております。キャンプを予定している「株父の森」は森林浴にはびっぴりとのことですので、「癒し効果」も期待してリラックスできると思っています。

さて、この夏を越すと、いよいよ「政治の季節」を向かえて、衆議院選挙があります(7月12日の都議選での自民党の惨敗という結果を受けて、現時点では7月21日解散、8月30日投票との報道がなされています)。とにかく、大切な選挙です。この数年私たちが障害者の生活を脅かしてきた「自立支援法」の抜本的見直し(廃止を含め)を実現できる政権を選ばなければなりません。そして最低限安心して生活できるだけの保障を実現しなければなりません。全国の障害者とその関係者が一致団結してよい結果を生むものと思っておりますので、ぜひがんばりましょう。

では、「熱い夏」を元氣いっぱい乗り切り、129号でお会いしましょう。  
 (編集部)

